

職 場 活 動 家 会
交 流 集

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則

国労への呼びかけを!



6月13、14日、大洗町内で第12回職場活動家交流集会在開催されました。会議には、分会・班・職能別協議会役員が出席し、本部指令1号に基づく取り組みを検証し、目標達成に向け改めて意思統一を図りました。また、宮崎浩則東本副委員長・小澤一雅東京地本組織部長・飯田智士氏（小田原電力メセ）も参加し、組織拡大に向け課題を乗り越え機関運動をどう作るのかを講演頂

きました。

宮崎副委員長は、「東日本本部を巡る情勢の特徴と当面の課題」について報告を行い、特に、組織の強化・拡大に向けた取り組みとして、①多くに共通する事象となっていないか（組織・機関運動へ）②情勢の変化と取り組みの前進に自信を持とう！と訴え、情勢を見極め、本籍国労への呼びかけを大胆に展開しようと呼びました。

久保田組織部長が問題提起

昨年12月、2名の仲間を迎える事が出来ました。この間、各機関から運動の総括が出されました。「思うようにならない」「全組合員の運動にならない」の報告があり、悪い所だけを見るのではなく、良い取り組みを伸ばして行く事が大切です。目標を立てて前進することです。

組織拡大について、出来ていないことなどを議論しても空中戦になってしまいます。分会・班が課題を決め取り組

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！



課題を克服し成果へつなぐ

久保田組織部長が問題提起
昨12月、2名の仲間を迎える事が出来ました。この間、各機関から運動の総括が出されました。「思うようにならない」「全組合員の運動にならない」の報告があり、悪い所だけを見るのではなく、良い取り組みを伸ばして行く事が大切です。目標を立てて前進することです。

職場に渦巻く矛盾や不平不満を親身になり話しを聞き、世話役活動を通じ、そうした中で成果に結びつける。仮に成果に結びつかなくとも職場改善を図ることができ、今後

合理化攻撃と国労の課題

JR東日本は昨年2月（川崎駅構内脱線事故）・今年4月（電柱の倒壊）・（東北新幹線架線切断）などで、国交省から警告文書と運輸安全委員会からは調査が入り安全が大きく揺らいでいます。

水戸支社内でも、昨年12月、23夜尊前踏切無遮断、2月に勝田車両センター構内脱線事故が発生しています。会社側の危機管理のあり方や安全を優先させる体制などを追求して行きます。

JR会社は、2015年度年度計画で効率的仕事の進め方を生産性を高める仕組みを方針として掲げました。大量退職時代に対応した施策として行きます。

常磐線復旧工事は、政府及び東電がもくろむ賠償金打ち切りを視野に入れた復旧計画とされています。JR会社の動向は、バス代行輸送や作業移動ルートに常磐道及び国道6号線利用を進めています。地方本部は、放射線量の閉鎖・安全確保・健康管理優先を会社へ求め行きます。

※国労水戸25号で分散会報告及び書記長まとめを掲載

最後に、JR会社の施策はあらゆる分野で委託化が加速しています。効率化施策で社員も減少し、組織率も減少してきます。関連労働者への加入も加速させ、裾のを広げ呼びかけることが重要です。

最後に、JR会社の施策はあらゆる分野で委託化が加速しています。効率化施策で社員も減少し、組織率も減少してきます。関連労働者への加入も加速させ、裾のを広げ呼びかけることが重要です。